

箱根には明るく楽しい話題が必要です

8月のお盆と9月のシルバーウィークには一時的に客足が戻ったとは言え、直近でも物販、飲食ともなると60%台、10月の宿泊の予約はまだ60%(昨年比)程度と相変わらず厳しい業況が続いています。火山の専門家に伺うと大涌谷はだいぶ収まってきたと言います。ただ、レベル1になる見込みは公言できないということのようです。このままですと、箱根の最大のピークである秋のシーズン、特に11月も相当に厳しいと覚悟しなくてはならないようです。

当所としては、対策本部「箱根活性化会議」を隔週で開催しながら、対応策を講じています。

活動のひとつとして、箱根を使ってくれる人を増やすためにはどう世間と上手にコミュニケーションをとったらいのかについてリスクコミュニケーションの専門家にも加わってもらい検討しています。その議論の中、どうも箱根のことが風化し始めているのではないかとという指摘がありました。つまり、箱根に対する世間の関心が低くなってきているようなのです。ツイッターやフェースブックといったSNSでの話題に上る数が減っている、あるいは、グーグルやヤフーで箱根、箱根観光、箱根温泉といったワードでの検索が減っているのです。

レベル1→2へ上がった5月始めとレベル2→3へ上がった7月頭には、あらゆるメディアで報道され、膨大な量の、箱根は危ないというマイナス情報が世間に降り注ぎました。そのマイナスなイメージのまま関心が下がってきているという甚だよろしくない状況が生まれているというのです。

よく世論は2割:6割:2割に分かれると言われますが、箱根に関してなぞらえば、最初の2割は何をどう言っても箱根は危ないという人、最後の2割は箱根大好き、応援したいという人、そして揺れ動く真ん中の6割。この6割の人たちがマイナスイメージのまま関心を示さなくなっている。私たちは地元当事者として何とかマイナスをプラマイゼロには持っていきたいと説明・説得をしようとするのですが、そもそも関心のない人には伝わらない。

では、どうしたらいいか？ それは箱根のファンの2割の人に、箱根についての明るく楽しい話題を提供し、その2割の人から話題を広げてもらうこと。現状を逆手にとって、今なら箱根は空いているので、道路の渋滞なしでスイスイとドライブできます、温泉の貸切状態です、もっと言えば、今大涌谷は何年に一回の見時ですよ!くらいまで言ってもいいのではないかと。

その楽しく明るい話題の提供の一環として、世界の美女が箱根に!

11月に東京でミスインターナショナルの世界大会があり、各国の代表が集まります。主催者のご協力で、彼女たちが一日小田原・箱根に来てくれることになりました。世界の美女が小田原・箱根の良さを満喫する様子を様々な国内外のメディアや彼女たちご自身のブログやフェースブックなどで発信してもらうというのが狙いです。10月26日(月)に50名が

朝東京のホテルバスで出発、昼前に小田原へ到着、手づくり甲冑隊が出迎え、小田原提灯やかまぼこの手作り体験の後、箱根に登り、関所、遊覧船、箱根神社などを巡っていただきます。夜は湯本でウエルカムパーティーも予定しています。地元を挙げて歓迎体制を作り、いつもどおりの箱根をアピールする絶好の機会にしたいと思っております。

まだまだ厳しい状況が続きそうですが、小さくともいいから、ドンドン明るく楽しい話題を作っていきます。

追申:今回のことを箱根にとっても小田原にとってもそれぞれの観光の在り方を見直すチャンスにしなくては思っています。それについては次回お話しします。

会頭 鈴木悌介